

# (仮称) 土庄町まちなかエリアプラットフォーム構築検討事業について

2025年9月  
No.01

# 土庄町まちなかエリア プラットフォーム検討会ニュース

## 本事業の趣旨

- 土庄町の都市計画(立地適正化計画)にて『中心拠点が生活拠点を補完し、島内外とのネットワークを明確化』、「まちなかにおける低未利用物件の計画的な活用・開発を進め、町の発展や交流を促進」、「徒歩・自転車でも生活しやすい、高密度で効率的な市街地の形成」を目指すための方策として、土庄港からエンジェルロードまでの区間の活性化等について明示

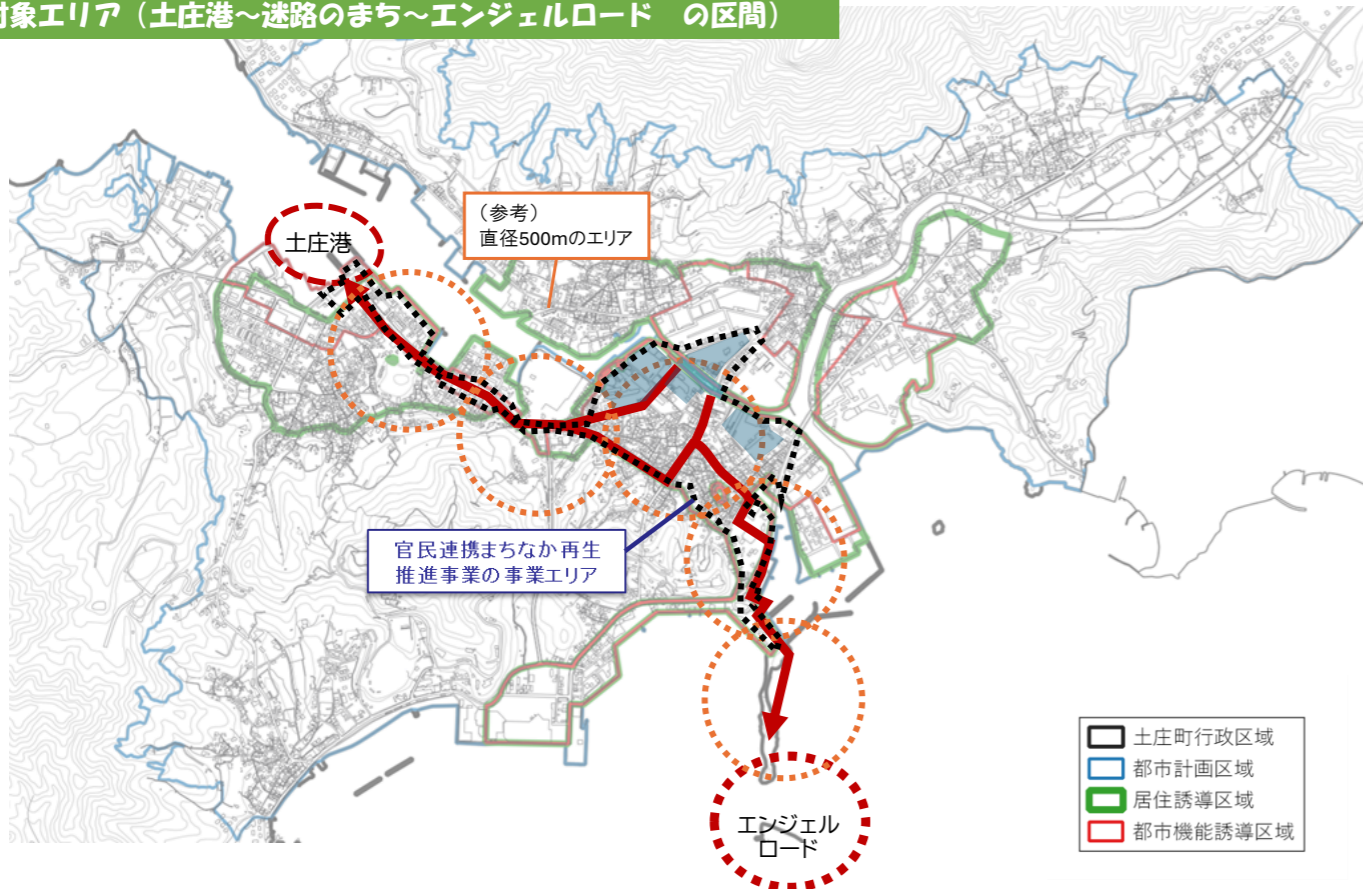
- ✓ エリア内の課題解決や賑わい創出の取組を戦略的・継続的に推進するため、**官民の垣根を超えた様々な主体が参画する枠組み(エリアプラットフォーム)**を構築
- ✓ 官民を問わない様々な主体が将来像を共有し、その実現に向け官民連携で取り組む**方向性や指針(エリアマネジメント等)**を検討

## 本事業の目的

- 「**エリアプラットフォーム**※」を構築し、多様な主体が同じ方向でまちづくりを進めるための方向性等を検討する。  
※エリアプラットフォーム:地域の多様な主体が一体となって、地域の将来像(エリアビジョン)を議論・策定し、その実現に向けた具体的なまちづくり活動を推進するための協議・連携の場(組織)

- **対象エリアを中心に、持続可能なまちの姿について検討、実践できるネットワークや体制を段階的に構築する**  
⇒ 対象エリアの持続化、活性化を目標に、官民が連携して検討・対話を行える場をつくる
- **まちの余白(未利用地)を活用した展開を検討する**  
⇒ 快適性や安全性向上に資する取組を行う
- **次年度以降も継続しながら、各プロジェクトが動きだしていくような機運を高める**  
⇒ 継続した対話の場づくりやプロジェクトの組成

## 対象エリア (土庄港～迷路のまち～エンジェルロード の区間)



## 土庄町まちなかエリアプラットフォーム検討会議 の第1回を実施しました!

土庄町は現在、少子高齢化、人口減少、経済の停滞、厳しい財政状況などに直面するとともに、旧庁舎をはじめとした公有地の利活用や災害対策等を含めた持続可能なまちづくりの実現を求められています。

そのような中で、令和6年3月に策定した「立地適正化計画」内で示した方向性やエリアを中心に、土庄港からエンジェルロードまでの区間の活性化に向けて取り組んでおり、今年度は、国の官民連携まちなか再生推進事業を通じて、官民を問わない様々な主体が将来像を共有し、その実現にむけて取り組む方向性や指針の検討及びプラットフォーム(活動組織)の構築に向けて検討を行っています。

令和7年9月10日に第1回目の土庄町まちなかエリアプラットフォーム検討会議を開催しました。観光、交通、住まい、金融、文化等、各分野から8名の方に参加いただき、事業概要やヒアリング結果の共有、対象エリアの課題や方向性、今後必要となる取組・アイデアなどについて意見交換を行いました。

### 検討会等の予定

- 第1回 事業概要の説明** (9月10日)  
事業概要等について
- 第2回 対象エリアにおける取組やアイデアについて** (12月23日)  
対象エリアの今後の方向性や取組等を検討
- 第3回 取組の具体化、プロジェクトの整理** (1月13日)  
2回目の結果を踏まえて、具体策や体制を検討
- 第4回 対象エリアの目指す方向性や取組等の確認** (3月予定)  
対象エリアの方向性や取組の案について確認

プラットフォーム構築や未来ビジョン(案)に反映

### ～次第～

1. 開会・あいさつ
2. 報告事項  
・事業実施趣旨・概要  
・ヒアリング結果の共有
3. 意見交換  
・対象エリアにおける方向性について  
・対象エリアにおける取組のアイデア  
・プラットフォームの方向性・あり方について  
・社会実験(案)の検討
3. その他
4. 閉会

## 次回

### 第2回 対象エリアにおける取組やアイデアについて

日時：1月実施予定。 対象エリアの今後の方向性や取組等を検討予定

# 1回目は事業概要の共有と「対象エリアの方向性」等をテーマに、検討を行いました！

## ヒアリング結果の共有

検討会の開催までの中で、土庄町内（小豆島も含め）にて、まちづくりに関連する各分野において、様々な取組が行われている事業者や団体等に対して、ヒアリングした結果について報告しました。

### 土庄町における課題

#### 【にぎわい／観光・交流】

##### （にぎわい）

- まちなかににぎわいが少ない。
- お土産や生鮮食品が買える場所がない。
- 周遊できる環境づくりが必要。迷路の町を散策・回遊できるようにしたい。
- 特に施設整備は重要。今後の展開も含めたビジョンは大事。
- 「地域ならではの」を活かすことが必要。

##### （観光・交流）

- 交流人口で外貨をどう稼ぐかは重要
- 観光業は人気がない。（観光だけで食べていくことは大変）
- 繁忙期と閑散期が激しい。

#### 【暮らし】

##### （防災・減災（安全面））

- 防災・減災対策は必要。特に密集しているエリアの対策も必要。

##### （住まい全般（移住定住・空家等））

- 移住定住する際に、わくわくが上回る必要がある。
- 土庄町は家賃が高いため、支援は必要。
- 住む場所がないといった問題がある。単身者を受け入れられない。
- 空家は山もついでくる。

##### （子育て環境、コミュニティ）

- 出産、子育てしやすいまちであることをPR。
- 地域で子どもを見守り、支えられるコミュニティがあると良い。地域で育てる。

#### 【取組の実施にあたって】

##### （情報共有・情報発信）

- 複数の事業が動いているので、情報共有が必要。
- 取組の発信は必要。

##### （体制面）

- 旗振り役が重要。
- 官民で対話する場は必要。
- みんなバラバラに動いている。
- ビジョンの作成と人的ネットワークが大事。

### 対象エリアの方向性

#### （エリアの価値向上）

- ハード整備（PFI）をするのであればエリア価値を上げていくことが必要。ソフトとの連動も大切。

#### （ブランド力強化）

- 小豆島ブランドを底上げ、小豆島の価値観を上げ、一次産業の収入を上げる。

#### （空間づくり（休憩所整備等））

- 迷路のまちの中に休憩スポットを作って、巡りながら歩けると良い。楽しい、休憩できるなど行くメリットをつくる必要がある。
- 非現実的な空間作りは面白い。ここに入ると違う雰囲気を感じられるなど。
- エンジェルロードからの動線を検討。エンジェルロードと土庄港をつなぐだけでなく、土庄本町の方へ誘客する かが重要。

#### （地域資源の活用）

- 小豆島の良さを生かしながら、小豆島全体の中で迷路のまちのあるべき姿や機能の集約等を考えていく。
- 大地の成り立ちから地域の景観や歴史文化を掘り下げるジオの観点を取り入れ、魅力を深めていく。

#### （飲食や店舗の充実）

- 飲食店が少ないため、飲食店の開発と小豆島出身の料理人を集め、地産地消もできれば。

#### （歩いて暮らせる、暮らしやすい環境構築／防災・減災対策）

- 生活をしている人に支障がないのであれば、車の通行規制をしても良いと思う。
- エリアによっては、自動運転は必要。防災減災の視点も大事。

#### （住まいの整理、充実）

- 10年後空き家になる可能性があるところをプロットし、集約等の見通しを立てる。
- 不動産について、サブリースのようなこと（仲介、販売は不動産にお願い）は事業と検討できるのでは。

## 意見交換

ヒアリング結果等の共有を踏まえて、対象エリアの課題や今後の方向性、取組、プラットフォームの方向性・あり方などについて、意見交換を行いました。

項目	主な意見
○土庄町の課題について	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 防災・減災に関する取組が必要である。</li> <li>● 土庄町でコンパクトシティを進めた場合、津波のリスクのあるエリアに人口が集中することを念頭におく必要がある。</li> <li>● 土庄港には多くの人々が訪れている一方で、土庄本町地区には賑わいが少ないため、人を呼び込み、にぎわいを創出するために、様々な角度からの検討が必要である。</li> <li>● 災害時に電気供給の面で課題があるため、蓄電池が備え付けられている街路灯やいすなどの検討も必要である。</li> </ul>
○検討のポイントについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 土洲海峡を中心にまちづくりが進められてきた歴史があり、世界のトレンドにもなっている親水エリアで様々な世代が楽しめる空間の検討が必要である。</li> <li>● 観光客を呼び込むためには地域住民の理解が必要である。</li> <li>● 地域の特徴についても理解してもらうことで、消費する以外の観光も生まれると思う。</li> <li>● 土洲海峡を活用して、水資源に親しむことを検討できる。</li> <li>● みんなが住みよいまちをつくるということを明確にし、そこから議論を展開していくべきである。</li> <li>● にぎわいを創出させるためには、住民の理解を得たうえで、何らかのアクションは必要だと思う。</li> <li>● 土庄町の中心は都市的な生活ができ、北部に行くと田舎の生活ができるため、多様な生活ができるという部分は面白いところである。</li> <li>● 町民もここ（エリアプラットフォーム）に任せれば大丈夫という認識にさせるために、きちんとしたステップで進める必要がある。</li> <li>● 行政の関わりは非常に大事だと思う。</li> <li>● まちづくりを掲げるのであれば、体制や資金面も含めて覚悟が必要だと思う。</li> </ul>
○まちの移動・生活面について	<ul style="list-style-type: none"> <li>● まちを歩いてもらうのか、スモールモビリティの導入の検討もするのによっても考え方は異なる。</li> <li>● お年寄りが病院や買い物へ近距離の移動をするためのグリーンスローモビリティがあると良いと思う。</li> <li>● まちなかの道路網についても考えていきたい。</li> <li>● 珍しい乗り物を集め、体験できるなど、道が入り組んでいることを活用したまちづくりもできると思う。</li> <li>● ユカリノ SPACE の駐車場スペースはたくさんあるが、施設を使う人のための駐車場となっているため、誰でも使っていい駐車場であるという分かりやすい、オープンな駐車場があると良い。</li> <li>● 土洲海峡の小豊島からの船着き場を活用できれば、迷路のまちにも簡単に行けるようになる。</li> </ul>
○イベント・地域との連携について	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の小さな子どもからお年寄りまでが交流を図れる場所ににぎわいをつくることで、観光客も入り込みやすくなると思う。</li> <li>● 多世代が参加できるイベントがあれば、自然とにぎわいが生まれると思う。</li> <li>● 高校生が主導するバザーは文化祭では行っているため、高校や中学校の協力があればできると思う。</li> <li>● 地域のイベントに参加したい観光客も一定数いるため、地域のイベントが定例化することで旅行人口は増加する。</li> </ul>